

るい、野花の類に宜し。一赤土あか又ゑびねけの類に宜し。一肥土とくち赤土の肥て黒みや成たるを云此土はわ諸草也。一沙石さわご竹、瞿麥の類に用て宜し。一田土たんち杜若、蓮、河骨、水葵澤瀉大底此類に用て宜し。一玄のぶ土あかね赤沙に玄のぶの類草亦を切木交て木指木に用て妙る。

〔草木錦葉集 緒〕草木植土の事

冬木の類植る土は烟の並土よし、合土なれば別して吉。植方は植付心得の部にあり、土の違ふ品は其品へ記す。

呼接の品切落、七月中頃より後に植る品は、すべて肥なき並土を用ひてよし。

夏木類諸品とも並土にてよし、尤年々植替べし、植法は植付の部にあり、

草類は諸品とも掃溜土下水土よし、合土は前年寒中肥を懸置たる土なれば別して吉、
→ からふきさんづち

り、何國にても如此の土見合可用

葛西真土　かめいど邊よりなり平、隅田川の筋みな真土にて、かさいに似たり、小石まじりたる

は砂真土なり、よくふるいてつかふべし。

武藏野土 巢鳩村邊より板橋染井筋、野土にてむさし野に似たり、但シころめなるを上とす、赤め

なるは土の性おとれり、

八王子、砂 目黒邊にも間々あり、雜司谷王子の筋大方似たる砂なり、但シ白めなるを上とす、黒め赤め成はわるく、小石あらばふるひて用、

右三色の土等分に合たるは、何の草木を植テも相應せり、但シ草木により、少宛かわるも有べし。
たとへ牡丹ばんじゆくといへ共、牡丹は三土よし、芍薬は砂と眞土等分に野土無用にてよし、蘭は砂眞土等分